

第8回 市民の声を聴く会 提言に対する回答

公共施設の維持管理について

(要旨)

平成5年に千歳市武道館が新設され、その館中に弓道場がありますが、現在の弓道場の冬季における控室と射場の間の温度の差が約5度あり、高齢者の愛好家においては、この温度差でヒートショックで心筋梗塞や脳卒中で倒れる恐れがあり、射場と控室の温度差を改善する対策をお願いしたい。

専門家において室温差の改善によるヒートショック防止策を検討して頂きたい。

射場の天井部の暖房機やサーキュレーターを新設して頂きたい。

控室に暖房効果をアップし光熱費を下げるためにサーキュレーターを新設して頂きたい。

控室のガラス張りの壁に射場との空気の循環を図り、温度差を軽減するように通気口を新設して頂きたい。

(対応) 産業建設常任委員会で協議。

(対応先の協議結果)

ご提言内容に関しましては、頂いた事前通告にて内容を確認し、市担当部の同行のもと、現地確認をして参りました。その際、提言者の言われるとおり、控室と射場の温度差があるのを確認しました。また、現在の対策として、住居用の結露防止ビニールを使用し、射場前方の下部からの隙間風を防ぐ措置を管理者の創意工夫により行われている状態であることも確認できました。

今後の対応としては、まず を参考に、控室と射場の温度差解消を目的とした効率的な暖房や断熱等が、どのような方策なら検討可能かが前提になると考えます。具体的には、 のように、射場への暖房機設置についての検討が成されることが重要と思慮しておりますが、他方で、現在対応されている隙間風を防ぐ対策の相乗効果として、熱を逃がさないよう断熱効果が高い物によるシャッター全部を覆う対策も考慮できるかと思われます。他地域では、シートカーテンを利用している例があり、当該例にあてはめると、シートカーテンを矢道と射場の間にあるシャッターの全面を覆うことで熱を逃がしづらくすることが考えられます。弓が通る窓部分は、シャッターの窓の大きさに合わせる加工も可能となります。これは、温度変化に強い対策として宮城県や山形県で取り入れられているようです。

については、控室の暖房効果を活用しての対策となり、これも経済面において大切な要素ではありますが、サーキュレーター導入及び通気口工事と、それによる暖房費との費用対効果の分析が必要かと思われます。

一方、現地における利用者との懇談では、射場は道場であり、厳しい環境下でも問題ないなどの意見もありましたが、今後、弓道愛好者の皆様や施設管理者、各関係団体から出たご意見に対し注視していきたいと考えます。